

はり博士は朝鮮の土地に變らざる執着を有つてゐられるのであらう。

尙ほ、今回、吾輩はル博士を迎へて、暫く快談した中に、吾人相互が世界を通じて眞にコスモポリタンの境地を楽しみ、天文家なるが故に、至る所に知己朋友と交遊し得る特權を、繰り返し語り合つたのであつた。——こうした境地は、今日のやうな國際問題の多い時代に、言ふべくして、なか々々體驗上徹底し難きものであるが、博士は實に趣味と、研究と、交友と、社會生活との、あらゆる方面に於いて、極めてナチュラルに此うした國際人たる事を味得せられる點、一驚異とするに足ると言はなければならない。

天文を單に一つの理學乃至技術としてのみに局限せず、むしろ之を人間文化の重大なる一要素と認識し、毎日日常の體驗を通じて、人生を明るさと、味はひの豊かな理想へ導くための指導原理とする點に、吾人の進み方を徹底したい希望を棄てることなく、どこまでも、天文人として、人と共に楽しみ、人と共に喜ぶ心の、愉快的修練を、積みたいものである。ル博士の貴き經歷と、現在の生活とを見て、そこに吾人がための美しい一つのモデル・ライフとして之を觀ぜざるを得ない。(1935, 7, 12 山本)

過去及び將來の日本の皆既日食

1887年 (明治20年)八月19日, 新潟縣, 福島縣地方 (15時頃)・

1896年 (同 29年)八月 9日, 北海道 (14時頃)・

1918年 (大正 7年)六月 8日, 伊豆南方の島島 (早朝)・

1934年 (昭和 9年)二月14日, 南洋ロップ島 (朝)・

1936年 (昭和11年)六月19日, 北海道の北方沿岸 (15時頃) 明年の日食!!

1941年 (昭和16年)九月21日, 沖繩 (13時頃)・

1943年 (昭和18年)二月 4日, 北海道 (8時頃)・

1963年 (昭和38年)七月20日, 千島 (朝4時頃)・

2009年 七月22日 奄美大島 (11時頃)・

2035年 九月 2日 京都, 大阪地方 (10時半頃)・

2063年 八月24日 東京地方 (10時頃)・

明年の北海道の日食こそは場所も良いし、好い時候でもあり、交通の便もある事だから、有志の方々は大いに見物に出掛けられるがよらしい!! 因みに京阪地方から、日食地までの距離は陸地で約2晝夜、往復旅費は約30圓見當です。(編輯)